

平成21年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	古文書・古記録解読・判読事業				開始年度	昭和53年度	
基本目標	文化財の保護と活用				終了年度		
担当課(局)	社会教育課	担当係	図書館	記入者	矢野 やす子	評価者	東 啓三
20年度決算	60	千円	21年度予算	60	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
20年度人件費	719 千円		21年度人件費	728 千円		事業従事者数	0.10 人 0.10 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	高鍋の歴史・文化が記録してある古文書・古記録等を判読解読することにより、高鍋の歴史解明の貴重な情報源とする。
事業の内容	町立高鍋図書館に所蔵する古文書・古記録の中から高鍋の歴史を解明するのに身近な資料から解読判読を行う。選別については、解読を依頼している宮崎県文書センターの永井哲雄先生の指導により、年間1冊から2冊を解読判読している。

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 総数(近世に於ける藩の資料を充実)	高鍋藩の近世に於けるより多くの資料を収集する。また、関連資料の発見にも貢献し今後の解読資料選定にも繋がっていった。
	2	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 解読判読および資料の解読(年間)	「萱嶋家家格」「福嶋 御改革筋 手控」2冊解読。
	2	
	3	

◎達成状況

指標名		単位	19年度	20年度	21年度	
成果指標	総数(近世に於ける藩の資料を充実)	目標値	冊	19	21	23
		実績値	冊	19	21	
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	0	目標値				
		実績値				
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	
活動指標	解読判読および資料の解読(年間)	目標値	冊	2	2	2
		実績値	冊	2	2	
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	0	目標値				
		実績値				
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	
0	目標値					
	実績値					
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!		

◎事務事業の評価

妥当性(必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	高鍋の歴史を解明していく上で大変貴重な事業だと考えられる。当館に歴史的資料を保存管理している以上解読判読されてなければ、高鍋の歴史を考証していくうえでは片手落ちであると思われる。「歴史研究」等々高鍋には歴史を研究する人々が育てられている。今後もこの傾向は継続され、益々資料の存在は重要視されていくと思われる。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	資料を原本で保存している限り、特別の研究者にしか閲覧の機会はないと思うが、この事業を行うことにより町民にとっては非情に身近なものとなり町民による歴史解明の一助となることは確信できる事業である。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	解読を宮崎県文書センターの永井哲雄先生に依頼していることにより、先生自身が高鍋町在住であることと、自主団体である「歴史講座」の講師として貢献していただいている関係上、非常なご協力をいただいている。解読に限らず古文書の保管保存に関することなども貴重な助言をいただいている。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	自主団体である「歴史講座」等会員の協力を得ることは可能であると思われる。

事務事業名	古文書・古記録解読・判読事業	担当課(局)	社会教育課
-------	----------------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	専門的な知識を要することからボランティアの活用方法等、検討していく必要がある。事業としては、継続して実施していく必要がある。	今後の方向性				
			事業の方向性	拡充	現状維持	縮小	廃止
					○		
			廃止	縮小	現状維持	拡充	
			コスト				

事務事業評価委員会 評価欄	事業	拡充	◎後継者問題も含め、今後の方策について検討をしていくべきと考える。 ◎全体数に対する成果を挙げること。
	コスト	現状維持	